



長い2学期を実り多き日々に



2学期が始まって1か月が経ちました。1年間で一番長い学期になります。数えてみると、その日数は79日。1学期の71日と比べるとそんなに思ったほど多くないことに気づきます。しかし、1学期の取組（頑張り）の上に2学期の取組（頑張り）があると考えると、きっと学習面でも運動面でも、「実りの秋」と言われるように、2学期は子ども達に多くの豊かな成長や学びが期待されます。そうした「豊かな成長や学び」の姿を見逃すことなく、肯定的な言葉がけに努めたいと考えます。ご家庭や地域でも、どうぞよろしく願いいたします。

CS(コミュニティスクール)の取組…子どもを中心に保護者や地域の方々との協働活動

10月2日(木)、5・6年生は家庭科学習(裁縫実習)で、保護者や地域の方々に学習サポートをしていただきました。これまでも、6月に調理実習のサポートをしていただきました。こうした学習は、地域の方々や保護者の「生きた知識や知恵、技能」を学校の教育活動で活用するコミュニティスクールとしての取組の一つです。今後、他学年においても保護者や地域の皆様にサポートを依頼する場面もあります。どうぞご理解の上、ご協力を頂きますよう、よろしくお願いいたします。

また、「蒲刈小学校の子ども達のために、こんなことをしたい」といったご提案がございましたら、お声掛けください。「教科等との関連」や、ねらい、実施日時、サポート内容等をご一緒に検討した上で、来年度以降の教育課程に生かせるかもしれません。学校と地域とが「子どものよりよい成長」に向け、多様な協働的な取組ができることを願っております。



より豊かな表現力を身に付ける「呉市音楽家協会様による歌唱指導」



1・2年生は9月30日(火)の「洋楽鑑賞会」で、発声指導や合唱指導等の歌唱指導を受けました。呉市音楽家協会の先生方による取組で、「児童の音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、心豊かな呉の子ども達の育成をめざす」活動です。

学級内では、元気いっぱい子ども達も学級や学校から出ると、自信がなくなり声が小さくなりがちです。学習発表会を前に、1・2年生は互いの声や伴奏を聞き合いながら歌唱したり、発声(発言)したりする方法やその大切さを学ぶことができたと思います。

今回の学びを活かして、日々の発言ややりとり、豊かな表現力に繋いでいき、学習発表会でもその姿を披露できることを期待しています。

タブレットを活用して主体的で対話的な学び「栄養指導(食育)」

3・4年生は、10月6日(月)に学級活動で栄養指導(食育)を受けました。指導とは言え、八重垣先生(栄養教諭)から一方的に教えられるのではなく、3・4年生自身が「日々の食事や給食を振り返り、食生活を見直す活動」に積極的に取り組んでいました。

気付きや見付けたことをタブレットに入力し、互いの情報を共有した上で、分類したことを他グループに発言するという子ども達の主体的に学ぶ姿が見られました。



「蒲小お助け隊 出発！」 昆虫のことは私たちに任せて！



10月1日(水)、1年生は下蒲刈保育所を訪問しました。今回は「蒲小お助け隊」と題して、保育所の友達からの昆虫にまつわる「おなやみ」を解決した後、「虫取り」等、いっしょに体験活動に取り組みました。

保育所と小学校との連携により、それぞれの「子ども達がどのように学んでいるのか」について理解を深め合うことから、それぞれの学びの場での取組に生かそうとしています。教職員が一人一人の子ども達の成長と学びを受け継ぐことで、子ども自身の確実な成長と学びにつながると考えます。

蒲刈生まれのカブトガニ Baby 来校



県民の浜より石井様と池田様が「カブトガニの赤ちゃん」を連れてきて、お話をしてくださいました

「みずほ教育福祉財団」から児童図書贈呈



県教委の推薦・みずほ財団の選考により贈呈を受けました

12年目「アクサ・ユネスコ減災・防災プログラム」への参加

アクサ・ユネスコ減災・防災プログラム研修に参加するために、仙台市と気仙沼市を訪問してきました。まずは、「東日本大震災のメカニズム」や「発災時人々の行動」等を専門家による講義を受けました。

その後、気仙沼市階上(はしかみ)地区の震災現場で語り部の方からお話を聞き、震災遺構が残る「伝承館」を訪問しました。翌日には階上小・中学校の防災教育の「授業観察」や「生徒との対話」を行いました。

学んだことを蒲刈中学校区の防災訓練に活用していきます。



校舎3階に入り込んだ車



慰霊碑前で語り部との対話

今回は諸事情により2ページのみです(文責:的場)